

平成 24 年 度

(自 平成 24 年 4 月 1 日～至 平成 25 年 3 月 31 日)

事業報告書

財団法人 京都「国際学生の家」

事業報告書

当法人は、「国際的協力にもとづくものであって、京都に学ぶ各国学生の健全で有意義な共同生活を助成し、もって、その知性、徳性および霊性の向上をはかり、併せて、国際理解と親善の増進とに寄与する」（寄附行為第3条）ことを目的としている。

世界各国から国際学術都市京都に來り学ぶ外国人学生と日本人学生に、学寮という生活の場を提供し、月間・年間を通じた行事や毎日の地道な活動を通じて、ハウスの創始者であるスイス人牧師、故ウエルナー・コーラ（Werner Kohler）博士の提唱した「共同の生」を体験させることによって、この国際理解と親善の増進を計る。この「共同の生」とは、我々の現存在の表面的な調和的共存を意味しているのではなく、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、寮生相互に対決（confront）させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格としての「出会い（Begegnung）」を体験させることである。この「出会い」を通じて、相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容（Tolerance）が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であると信じ、この「出会いの家（別称）」という屋根の下で営まれる「共同の生」の実現と維持を続けている。

開館以来48年間に、寮生用34室を利用した寮生は世界の79ヶ国から921名、併設されている研究員用14室を利用した学者、研究者は91ヶ国から2,885名の多きにのぼる。これらの寮生、研究者達は、京都における学際的研さんの成果と共に、この「家」で体験した人間同士の愛と連帯意識をもって世界中で活躍している。

平成20年12月1日より新公益法人制度の施行が行われることが判明し、開館以来48年の歴史ある当財団の「寄附行為」に書かれた目的、事業、機関、財務などについて、現状の総点検及び問題点への対策を検討してきた。その結果、本財団の更なる発展のためには、旧「財団法人」から新「公益財団法人」に移行すべきであるとの理事会決定（平成19年5月20日開催の第190回理事会）がなされた。それを受けて当財団としては、「定款」や諸規則等の策定など、公益財団法人への移行認定申請に必要な種々の準備を行ってきた。そして、平成24年3月31日付けで書類を整え、公益財団法人への移行認定申請を行った。

約1年後の平成25年3月19日に財団法人から公益財団法人への移行が認定された。

I. 事業の概況

1) 国際的な学寮の設置及び経営

(1) 京都「国際学生の家」

	学生用	研究者用	備 考
収容定員	34 室	14 室	研究者用にはツインルーム 5 室あり

(2) 利用状況

○学生の部（平成 24 年 4 月より平成 25 年 3 月）

国 別	人員	研 究 機 関 別	人員
日本	13	京都大学	30
中国	3	立命館大学	1
韓国	3	同志社大学	3
ベトナム	2	その他	2
ミャンマー	2		
タイ	2		
インドネシア	1		
オランダ	1		
カンボジア	1		
ドイツ	1		
エストニア	1		
イギリス	1		
グルジア	1		
リトアニア	1		
スウェーデン	1		
モンゴル	1		
カナダ	1		
合 計	36	合 計	36

○研究者・学者の部

日本	9	ロシア	2
中国	8	台湾	1
タイ	8	アルジェリア	1
インド	5	フランス	1
イギリス	3	韓国	1
ドイツ	3	スペイン	1
アメリカ	3	デンマーク	1
ベトナム	3	カメルーン	1
ガーナ	3	ネパール	1
ベルギー	2		
カナダ	2	合 計	59

2) 学生及び研究者の生活・勉学の援助及びカウンセリング

原則として、日本人の一家族が、ハウスペアレント（学寮管理者）として、学寮内に居住して、寮生の生活のアドバイス、勉学援助やカウンセリングなどに当たった。そのハウスペアレントを補助する機関として、学生の入寮時の面接、カウンセリングなどを行う学寮運営委員会（ハウスコミッティー）が組織され、活動した。

3) 行事や活動を通じた学生及び研究者らの「共同の生」の推進

行事・活動：

下記のような月間・年間を通じた行事や日常活動を通じて、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、入寮学生・研究者相互に対決させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格として出会う「共同の生」を体験させている。この様な相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であり、このことが同じ屋根の下で営まれる「共同の生」を通じて実現できると期待している。各寮生には、ハウスの維持のために必要な仕事(当番：例として、ハウスキーパー当番、スポーツ当番、コモンミール当番など)を分担させている。また、一緒に食事や音楽、スポーツ等を楽しめるような共有設備(共有台所、ピアノ、広い応接室、卓球台、ビリヤード、バレーボールコート等)を備え、自然に「共同の生」に参加できるような仕組みとしている。

(1) 月間定例行事

○ほぼ月に2回 19:30~21:00 チーム・ミーティング

半期ごとに学生から選出されたチェアパーソン、バイスチェアパーソン、書記、会計とハウスペアレントがチームという自治組織を作り、全員参加のハウス・ミーティングの前に、ハウスで起こる諸問題やセミナー等を含めた種々の行事の打ち合わせを行っている。

○ほぼ月に2回 18:30~20:30 コモン・ミール (夕食会)

「コモンミール」は、当番制で作る寮生の自国料理を皆で楽しむ夕食会のことで、寮生達が友好を深め、異なった国々の文化を理解する第一歩であり、「共同の生」の入り口であり、道場だと考えている。「食べる」ということは、多様な地域の文化・慣習・宗教などを一番簡単に、しかも深く感じることでできる行為だと私たちは考えて行っている。

○ほぼ月に2回 20:30~22:00 ハウス・ミーティング

コモンミールの後に、ハウスペアレントも含めて、寮生全員参加の一番重要な会議である。寮生のチェアパーソンを議長に、ハウスで起こる諸問題を取り上げ、全員で議論を闘わせ、解決への努力をしながら「共同の生」を体感している。

(2) 年間定例行事

○新入生歓迎会：平成24年4月14日(土)、10月13日(土)

前期と後期で年に2回、寮の理事やハウスコミッティの委員が参加。理事長や理事の挨拶後、国際寮の生活に早く馴染めるよう、寮生の委員によるハウスのガイダンス、及び新入生の自己紹介等が行なわれた。

○国際食べ物祭り：平成24年7月7日(土)

「食を通じた国際親善活動」と位置づけられている行事で、各国(9~10カ国)留学生のお国自慢の料理を、ダンスパーティ等でご迷惑をお掛けしているHdB周辺の住民の皆さんや、寄附をして下さった方々や友人を招待して、食を通じて、寮の雰囲気や世界を実感してもらおう定例行事が開催された。用意した300食ほどが2時間ほどで完食された。

○感謝祭：平成 24 年 11 月 17 日（土）

学寮に寄附して下さった方々や団体、日頃お世話になっている人達をご招待して、各国のお国自慢の料理の腕を振るい、感謝の気持ちと学寮が多くの人達の善意で成立していることを理解する定例行事が行われた。

○ 小旅行：

前期：平成 24 年 7 月 14 日（土）、15 日（日）

滋賀県高島市マキノ

ハウスから外出し、日本の美しい自然に触れながら、寮生お互いの親睦と相互理解を図る目的で行われた。

サイクリング、湖水浴、バドミントン、バーベキュー、花火、親睦会、スイカ割り等を行った。

お揃いの T シャツを作成し、参加者全員が着用した。

後期：平成 24 年 11 月 10 日（土）、11 日（日）

レイクフォレストリゾート

ハウスから外出し、日本の独特の風習である「共同浴場」の体験を通して、寮生お互いの親睦と相互理解を図る目的で行われた。

ハイキング、ボウリング、温泉を楽しみ、夕食はしゃぶしゃぶをいただいた。

○セミナー

前期：平成 24 年 5 月 12 日（日）

フランスの伝統的ダンスの講師を招いて実習し、その後、ロビーにてワインと手作りのおしゃれなスナックで楽しい交流の時間を過ごした。

後期：平成 25 年 1 月 12 日（土）

ヨガの講師を招いて体験、その後、餅つき大会を催し交流の時間を過ごした。

○ スポーツ大会：平成 24 年 4 月 28 日（土）、平成 24 年 10 月 27 日（土）

年に 2 度、スポーツを通じて、寮生達の交流と親睦を兼ねたスポーツ大会を行った。

○ダンスパーティ：平成 24 年 6 月 9 日（土）

年に 1 度、友人や知り合いを招待して、交流や親睦をはかると共に、学寮の宣伝を兼ねた行事（ダンスパーティ）を開催した。また、本行事は、「チー

ム」の活動資金を調達する目的もある。

○ クリスマス・パーティ：平成 24 年 12 月 15 日（土）

日本的な意味でのクリスマスの名を借りた寮生達の「忘年会」である。学寮の役員、親しい友人やOB 達を招待して、自慢の料理やケーキを作り、一緒に食事をし、余興など、一年を振り返りながら、親睦を図る楽しい行事であった。

○ クリーニング・デイ（大掃除）：平成 24 年 7 月 8 日（日）、12 月 16 日（日）

年に 2 度、寮生全員で、学寮の共有スペースである卓球室、ビリヤード室、応接室、運動場などを清掃する。自分たちの生活空間を自分たちで、清掃し、整理整頓にすることで、生活空間を快適にする目的で行った。

以上のほか、国際ソロプチミストの招待を受けて、日本の文化や歴史を学習して、国際交流に努めた。

4) 図書刊行頒布

会誌等の刊行：「2012 年度 YEAR BOOK」の刊行。

学寮の公式の出版物である。一年間の学生達の活動報告や、元寮生の経験談、寮としての公式の活動を記録して、関係者に配布して、学寮の活動を理解して頂く出版物である。本年の特集は「HdB を巣立って」という題で、OM からの原稿が集められた。今号には、特に定年後のミャンマーの日本人学校のボランティアの校長として赴任された OM の話や、東北大震災のことで、放射性物質の汚染問題で揺れていますが、インドの OM が知らせてくれた高自然放射線地域の人体影響の話は、興味深い記事であった。

Ⅱ. 庶務の概要

1) 役員

理事長	内 海 博 司	京都大学名誉教授
常務理事	岩 崎 隆 二	和晃技研（株）代表取締役社長
理事	上 村 多恵子	京南倉庫（株）代表取締役社長
	神 田 啓 治	京都大学名誉教授
	木 戸 康 博	京都府立大学教授
	シュペネマン クラウス	同志社大学名誉教授
	中 島 理一郎	元同志社大学教授
	平 松 幸 三	京都大学教授
	村 瀬 哲 司	京都大学名誉教授
	村 田 翼 夫	京都女子大学教授
	森 棟 公 夫	椋山女学園大学教授
	吉 田 和 男	京都大学教授
	吉 村 一 良	京都大学教授
	山 本 将 史	ハウスファーザー
	アンドレアス・ルスターホルツ	関西学院大学教授
	嘉 田 良 平	総合地球環境学研究所教授
監事	琴 浦 良 彦	市立長浜病院名誉院長
	柴 田 光 蔵	京都大学名誉教授
学寮運営委員長	山 田 祐 仁	辻調理専門学校
学寮運営委員	秋 津 元 輝	京都大学准教授
	大 島 義 信	京都大学准教授
	坂 口 貴 司	三菱電機（株）
	鈴 木 在 乃	京都大学職員
	田 島 勇 人	松下電器（株）
	タナゴナン ジーン	近畿大学講師
	デイヴィス ピーター	テレコグニックス CEO
	戸 口 田 淳 也	京都大学教授
	前 川 佳世子	元ハウス・マザー
	山 本 将 史	ハウス・ファーザー
	山 本 理 子	ハウス・マザー

2) 評議員	岩田 忠久	東京大学准教授・OM 会員
	内田 伊三雄	牧師・元 HF
	奥山 格	大阪大学教授・OM 会員
	鴨下 礼二郎	医師・OM 会員
	川野 家稔	OM 会員
	木下 研一	医師、OM 会員
	金 盛彦	医師、・OM 会員
	高橋 晴雄	長崎大学教授・元 HF
	田中 徳壽	OM 会員
	富永 芳徳	医師・OM 会員
	中山 宏太郎	医師・元 HF, OM 会員
	西尾 英之助	京都日独協会
	西本 太観	OM 会員
	野本 真也	学校法人同志社大学理事長
	古川 彰	関西学院大学教授・元 HF
	矢島 脩三	京都大学名誉教授
	山本 正之	神戸神鋼病院院長・元 HF

3) 職員

氏名	担当事務	備考
樋口 洋子	法人事務及び経理事務等	
清水 良子	受付業務などの庶務事務	
吉竹 慶一	学寮の維持管理（学寮外周り）	
西 由美子	〃（学寮内部）	

4) 後援会員 （詳細についてはイヤーズブックに記載。）

法人会員	12
個人会員	39
OB会員	378

5) 理事会

回・年 月 日	議 題	結果
201 回・ 平成 24. 5. 27	1. 第 200 回理事会議事録の承認について 2. 平成 24 年度事業報告と収支決算について 3. 公益財団法人申請後の状況について 4. その他 報告：ハウスペアレント（松崎 HP から山本 HP）の交代について 公益財団法人への申請について	承認 承認 承認 承認 了承 了承
202 回・ 平成 25. 3. 11	1. 第 201 回理事会議事録の承認について 2. 平成 25 年度事業計画案について 3. 平成 25 年度予算案について 4. 公益財団法人認定に関わる手続きについて 5. その他 報告 1. 公益財団法人認可について 2. 本年度の活動報告について 3. その他	承認 承認 承認 承認 承認 了承 了承 了承

6) 行政官庁の許可

特定公益増進法人の許可を受けている

7) 行政官庁の指示に関する事項

該当なし

8) 契約に関する事項

該当なし

9) 寄附金等に関する事項

(1) 寄附金・寄附物品（後援会費を除く）

<p>寄附者（敬称略・順不同）：財団の維持及び活動経費として受け入れ、目的に応じて支出した。</p> <p>文字健二 中山宏太郎 山口忠彦 山岸秀夫 清水 勇 岩田忠久 美濃導彦 高島修一 中島理依子 金澤成保 尾池和夫 崎本 襄 鈴木松郎 田中徳壽 近藤哲理 中島理一郎 田中博子 （財）上尾竹園会 内海博司 野田和伸 ボーイスカウト第42団谷口平八朗 樋山キミノ 光明和子 高木 町 板谷しのぶ 大谷 収 石田順子 置田和永 稲垣 純 山本雅英 稲垣和子 村田翼夫 （財）体質研究会 岡村圭造 国際ソロプチミスト京都一たちばな</p>
--

(2) 補助金・援助金

補助金の目的	補助者	補助金額	備 考
外国人留学生 対策事業	京 都 市	1,009,000 円	補助目的に応じた事業に支出

10) 基本金に関する事項

本年度末現在の基本金は下記のとおり。 (円)

区 分	項 目	金 額
基 本 金	ライオンズクラブ (27LC) 京都、西、南、洛南、洛陽、鴨川、桂、北桑田、 洛東、堀川、東、華頂、洛中、みやこ、岡崎、 平安、葵、橘、紫明、北、洛北、桃山、山城、 乙訓、宇治、城陽、綴喜	13,400,000